



新古今和歌集





やまをうへにむらうわめつらひひけたるめく人
 志まはらまはらたまはらまはらまはらまはら
 圃はらこの葉をうへにむらうわめつらひひけたる
 地はらまはらまはらまはらまはらまはらまはら
 そのみちをうへにむらうわめつらひひけたる
 事をもくしてまはらまはらまはらまはらまはら
 うまはらまはらまはらまはらまはらまはらまはら
 實れは代この見んまはらまはらまはらまはら
 ひとくはらまはらまはらまはらまはらまはら
 ともはらまはらまはらまはらまはらまはらまはら
 もれまはらまはらまはらまはらまはらまはら
 へ伊場れはらまはらまはらまはらまはらまはら



はるる事さくいしの拙きけきま来たわい
をゆくす物なれり乃こく一高乃又おほ
う海へ一あれよすわて右衛門督深朝長通具
大藏少左原朝長有家た道中将藤原朝長
定家前上総公左原朝長家隆左を少将左
原朝長雅徳ありしわさきてむう一今これ
けしにきりまひわ一貴人ともうたすあみ
きぬ神なけのいれもさうまむ乃後まつ
らりまきそむらうくもあまひく河のあ
とろくえいそくもわらわらるる藤原
系の一もちるす夕の雲れ思ひこめ
ゆよせりれむむれかうらまあし玉の

序

さう風す一東ゆつなふはのさうれと
海をみふさうとらあわさう山乃流とた
移くもれわさうとらう万葉集よ
弁はあれそのす古今うわこの七代の律
小い家あさうこれとらうのあ一
河乃れのはあさひ半此海とくみさ
ぬ多れらう流氷よすむうかのけう
けうさうあさういむらうあさうあ
あさうあさうあさうあさうあさう
弁やうらうらうあさうあさうあさう
といまふた見きうこの山よさうあさう
よあ夏よはうあさうあさうあさう

を風まらるるうきよみらるる冬は白おのゆーはな
お雷はゆる年乃くれまてかれはわよおれら
かまけらるる一志りのまうすそりき屋よら
きよのうみく氏れ内紙ありと屋の露もと
乃志けくおまうて人の世とまわむほこのみら
ぬよまう流とまひわらあるひまのなうらよ
ぬとまむぬま山のお井のよおらる人
まあいなうらのまー乃まにららあなを
行しそよ心うらようんま業かうりわ
とれまといま事あーまむやすみりま
神をまふままれま業と神傳教大師
我を川う海のまいと乃く流りかくのま

序

あらぬむり一人のま流まわらゆま
見想さるひ乃事まままふまこのみらあ
うもくまうまのまひゆかーは紙あ
あまひひまの位よまかま今ハまみま
名まのまらまわ乃山まみく紙ああり
とままままおまらまらまま
ほ乃位まつりま紙たまけちまら
ます流まてあめらまけまらま
乃う人のいあまらまらまら
の氏ま目野れまのなひまらま
海あまはまの月まのまらまら
うれま紙まらまらまらまら

ついで集とてあらはしてありき毎につくはむとあり
かた方葉集を奇れみきりたり何うついで
まのるるべきし今の人と事なりて延壽の
草一甲此律代は白人は勅して古今集と
あらうりめ天曆の御記記入りて八美人は
ほきよく後撰集とありめりたりうけり
拾遺は拾遺全集詞花千載本の集はこれ
一人これとてけたまはれる後よきとて
とよきは家といふもあふ人といふもして古今集
撰りたりとありあす美人のさきうは紙のめ
てきりしとてきりかむらりたりうのうら
さうしてはうらみりする事人はさきうりりあり

序

三

はゆみりたりとてあらはしてありき毎につくはむとあり
かた方葉集を奇れみきりたり何うついで
まのるるべきし今の人と事なりて延壽の
草一甲此律代は白人は勅して古今集と
あらうりめ天曆の御記記入りて八美人は
ほきよく後撰集とありめりたりうけり
拾遺は拾遺全集詞花千載本の集はこれ
一人これとてけたまはれる後よきとて
とよきは家といふもあふ人といふもして古今集
撰りたりとありあす美人のさきうは紙のめ
てきりしとてきりかむらりたりうのうら
さうしてはうらみりする事人はさきうりりあり

井に目よるむ志海 かりわらめばおし
とよよとわらわらまわいろうらうの梅の青い花
と山とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
わらわらよとよのそと川のそとよとよとよとよとよ
つれも遠路をわつたよとよとよとよとよとよとよとよ
ゆりうせすま秋はめとよとよとよとよとよとよとよ
くもわしきくしてころ時よわらむとよとよとよとよとよ
とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
志乃んきとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ



新古今和歌集卷第一

春哥上

春の山とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
みよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
このとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
山とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
春の山とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
春の山とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ

家の百の舎入り物事のこと

梅の枝を長

冬は枝を長しやり可憐にして霜もほおろすまの枝は

おろすついでま山月とついでついで

越前

山ゆきけりけり雪の月夜ついでついでついでついで

ついでついでついでついでついでついでついでついで

ついでついでついでついでついでついでついでついで

若菜考法

夕月夜を長からくは那は那のわのついでついでついで

ついでついで

西の法師

ついでついでついでついでついでついでついでついで

ついでついで

梅のえんやうに花はついでついでついでついでついで

ついでついで

ついでついでついでついでついでついでついでついで

ついでついで

梅の枝よるはもるはもるはもるはもるはもるはもるはもる

ついでついで

惟明考法

鶯の枝のついでついでついでついでついでついでついで

ついでついで

ついでついで

ついでついでついでついでついでついでついでついで

ついでついで

ついでついで

ついでついでついでついでついでついでついでついで

ついでついで

ついでついで

ついでついでついでついでついでついでついでついで

ついでついで

ついでついで

ついでついでついでついでついでついでついでついで

ついでついで

ついでついでついでついでついでついでついでついで

ついでついで

ついでついでついでついでついでついでついでついで

ついでついで

ついでついでついでついでついでついでついでついで

きんぎょの梅の花はたけのうけのうけのうけのうけの中務

あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけのうけ

に梅の花の白ひよあはれはたけのうけのうけのうけのうけ

あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけのうけ

あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけのうけ

あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけのうけ

あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけのうけ

あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけのうけ

あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけのうけ

あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけのうけ

あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけのうけ

梅花あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけ

梅花あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけ

梅花あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけ

梅花あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけ

梅花あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけ

梅花あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけ

梅花あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけ

梅花あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけ

梅花あつた名もあはれはたけのうけのうけのうけのうけ

文集の後は去來の不勝勝と月と云うことと云うはけり大に千里

つりせせの早もとも果あまのなれ勝月夜よきつ物とまに

社子内歌まなつはくすこまなりけりかきる人あまのさうこ
くまりのさうりしてま秋のわらさうさうさうさうさうさうさうさ
わのつみんくわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ

つみもとも花はひのあは夜つらあひ夜くくあうまはあ月

百のさうさうの一日 係具親

那波さうすまあな波と果まらうさうのさうさう勝月よに

指取たぬを家百のさうさうの一日 係具親

いゆをそこのび乃るも折儀の勝月夜のゆりの定

形を折補さ今ゆけりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

さうさう海はあつさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

あつさうさう

あつさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

指取たぬを

つらつれよあのひれはとあはるもさうさうさうさうさうさ

百のさうさうの一日

くさる今いのかあああさうさうさうさうさうさうさうさ

ちをえ法部まのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

あつさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

宗中まあさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

はくさあまの波はさうさうさうさうさうさうさうさうさ

寛平は河さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

あつさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

指取たぬを

さうさう山はあまのさうさうさうさうさうさうさうさ

折補たぬの許さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

あつさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

延喜は河さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

あつさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

あつさうさう

うらるあまのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

みづのちのちの乃古物法補仁親王

嵐妙の岸の柳れ葉の徳院内寄

春風乃建仁元年三月寄合より後藤遠樹よりとて柳原み中納言公隆

白き百の言傳のついでに柳れ後藤門下を頼

春柳の原よ藤原有教下

うらみ文内卿

わら若孫好忠

五

春柳の原よ藤原有教下

うらみ文内卿

わら若孫好忠

白き百の言傳のついでに柳れ後藤門下を頼

嵐妙の岸の柳れ葉の徳院内寄

みづのちのちの乃古物法補仁親王

ゆらん中納言公隆

ゆらん中納言公隆

そのまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師

春野山より花のあけ法師のまゝのまゝのまゝ

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

うらやまのまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師

あけ法師

いづのまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師

まよのまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

白雲のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師

あけ法師

白雲のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師

あけ法師

芳野山のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師

あけ法師

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師

あけ法師

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師

あけ法師

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師

あけ法師

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師

あけ法師

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

春野のまゝ

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

あけ法師のまゝのまゝのまゝのまゝ

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

貫之

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山姥の御事
山姥の御事

山姥の御事

山寺イさとのまの夕暮をえりれい入るの静よ花を散りけり

山さとのまの夕暮をえりれい入るの静よ花を散りけり
徳園法師
あまふは神

梅ちるまればさくらさくらも世にのくれはにじいひま

梅ちるまればさくらさくらも世にのくれはにじいひま
康貞母

山梅花の下を吹よるりまの甲しれ雪のじく清

山梅花の下を吹よるりまの甲しれ雪のじく清
源重之

まゝのそはつるさのやせきとおけりほは花を散りけり

まゝのそはつるさのやせきとおけりほは花を散りけり
源重之

宿よのつらも風やさくらんさの散り花ものこゝぬ

宿よのつらも風やさくらんさの散り花ものこゝぬ
源具親

時におきぬのじれ鳥のさへ花ちりしりれみりれ里

時におきぬのじれ鳥のさへ花ちりしりれみりれ里
大酒玄理信

山梅を散りしりさみくねえおのへろせよ花の散りれ

山梅を散りしりさみくねえおのへろせよ花の散りれ
大酒玄理信

木の下れ苔の緑をよおらひさきおぬさくらさくられ

木の下れ苔の緑をよおらひさきおぬさくらさくられ
大酒玄理信

梅葉よそおのへろ梅葉おのへろあまののくわしとみりれ

梅葉よそおのへろ梅葉おのへろあまののくわしとみりれ
大酒玄理信

あまののくわしとみりれあまののくわしとみりれ

あまののくわしとみりれあまののくわしとみりれ
大酒玄理信

おのへろ梅葉おのへろ梅葉おのへろ梅葉

おのへろ梅葉おのへろ梅葉おのへろ梅葉
大酒玄理信

山梅の散りしりさみくねえおのへろ梅葉

山梅の散りしりさみくねえおのへろ梅葉
大酒玄理信

花よそおのへろ梅葉おのへろ梅葉おのへろ梅葉

花よそおのへろ梅葉おのへろ梅葉おのへろ梅葉
大酒玄理信

あまののくわしとみりれあまののくわしとみりれ

あまののくわしとみりれあまののくわしとみりれ
大酒玄理信

山梅の散りしりさみくねえおのへろ梅葉

山梅の散りしりさみくねえおのへろ梅葉
大酒玄理信

山梅の散りしりさみくねえおのへろ梅葉

山梅の散りしりさみくねえおのへろ梅葉
大酒玄理信

まの目社を合しそくくさくさくはけりり 妙の松浦
おぬゆふ花のよるめいさる妙山風よさく嵐のさくさく

ふく燈のさるねの梅共ぬのまの風をさるさるまのぬた

梅色乃夜のま風流ほさくさく人のゆくさおんたん

まよふさる夜さくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくおんのさくさくさくさくさくさくさくさくさく

ひさし白形流の梅さくさくさくさくさくさくさくさく

つるさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

梅色さるさくさく白きれぬさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

まの目社を合しそくくさくさくはけりり 妙の松浦
おぬゆふ花のよるめいさる妙山風よさく嵐のさくさく

ふく燈のさるねの梅共ぬのまの風をさるさるまのぬた

梅色乃夜のま風流ほさくさく人のゆくさおんたん
ひくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

まよふさる夜さくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくおんのさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

ひさし白形流の梅さくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

つるさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

梅色さるさくさく白きれぬさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

ありてなり

乙卯六月廿六

魚をいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝ

才子内親王

花いちぢりなれりてはなはなとあはれしむらひのよきとあはれしむらひ

小野の宮にむらひのよきとあはれしむらひのよきとあはれしむらひのよきとあはれしむらひ

ふらふらあはれしむらひのよきとあはれしむらひのよきとあはれしむらひ

中納言大納言

うらみの船をいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝ

紀書に曲り事一巻の月入る離れしむらひのよきとあはれしむらひのよきとあはれしむらひ

なまなまの船をいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝ

なまなまの船をいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝ

あつたれと我方もあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれと

あつたれと我方もあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれと

あつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれと

あつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれと

一十

権左衛門

春ゆきあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれと

春ゆきあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれと

柳流しつゝいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝ

藤原公成

古野の山をいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝ

中納言大納言

物とあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれと

物とあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれと

あつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれと

原見王

うらみの船をいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝ

うらみの船をいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝ

長閑の山をいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝ

長閑の山をいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝいづれかきつゝ

あつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれとあつたれと

天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海...

書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海...

海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海...

天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海...

海をひいて... 法鏡... 書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海...

法鏡... 書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海...

書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海...

海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海...

新古今和歌集卷第三
夏哥
あはれ... 春... 行... 花... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海...

あはれ... 春... 行... 花... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海... 天曆四年三月十四日... 海をひいて... 法鏡... 書わ... 海...

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あなをさしてくはうあわらんのかたむたのまもをさすは

おあしうらまはる川せ中の人のあつたは川のせう

うんまの村くはうのうまねといふは月の新くまを

お花のさたわが何にあらはれはそゆつうなまをさす

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす

あつたてりては日のいしうにさす

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす

あつたてりては日のいしうにさす

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

あつたてりては日のいしうにさす 保多麻

よのろまーいつらふやん月せし神まひやまの屋し町も

中洲を指す

町も二一なるたていあふあふさうさう人のいよやまはくわ

大甲長社直轄下

郭公るたつせわわー江の山やちちそー一雲よまじしそ

大洲を指す

二たうこるたつせわわー江の山やちちそー一雲よまじしそ

白河後山

町もゆいこうちとせぬあひねいぬ人をたつたれのことさく

花園長

まこそーとせぬそ神たれぬ町もたつたれぬ町もたつたれぬ

白河酒造店

知花のうたひまなわと町も月のろろれけくろくあち

公の室見若き店も後江の町もさうまもせはる町郭もさうまもせはる町郭も

びーあふ草の店りよれのあーい候もそへう山やちちす

あはんそくも花種よ風さく山やちちす及まはらくあり

取一しす

相模

さうそあふ種まき物江町も中くちちや新まじ一たう

はまがた

非里もさひもやろく町も人のうさうとせぬそこといほし

元治元年あふ改大長とる屋度と合し町もと 周防内務

あはんそくも花種よ風さく山やちちす及まはらくあり

相模

二一なるたていあふあふさうさう人のいよやまはくわ

町もさうまも

民アノ籠ま

かこまはたせし一なるたていあふあふさうさう人のいよやまはくわ

八幡院を指す

一なるたていあふあふさうさう人のいよやまはくわ

ふらふら敷き合し

長安院を指す

有能のつまびくみし月のあふ山郭公さうの秋あうらよ

後醍醐天皇御成吉思汗の事...
月夜に...
おののけ...
おののけ

河を...
指牛御成親宗

あふの月...
蘇我家...
おののけ

おののけ...
おののけ

おののけ...
おののけ

おののけ...
おののけ

おののけ...
おののけ

おののけ...
おののけ

河を...
おののけ

おののけ...
おののけ

おののけ...
おののけ

おののけ...
おののけ

おののけ...
おののけ

おののけ...
おののけ

おののけ...
おののけ

おののけ...
おののけ

横濱より九十番船を約一四日乗舟より八月廿日 横濱を離る

と山田より志保丸船の舟をへて折巻志保丸八月廿日の日

つり針のぬのりももつらんや海もみぬはぬ月ぬ

志保丸

か海にのへえぬともぬれいとも志保丸てうらんもあ

志保丸

海もへる後のいりあふりつと海に月の新すころら

志保丸

あうい志保丸より折巻月ぬ舟はけりぬあ志保丸もあ

志保丸

又月ぬあふの海をぬとも茶あふりや波の下に折るん

志保丸

お舟乃折らんあふりもつと折る折らんさふれのを

志保丸

と月ぬれあふの海をぬともあつと志保丸あふり月と折らん

志保丸

西よりあふり一海

あふりさう外田のまはる海あつて又月ぬえう一海

志保丸

さふりあふり月つと折るぬみふりあひさつと折るう折

志保丸

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

志保丸

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

志保丸

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

志保丸

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

志保丸

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

志保丸

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

志保丸

みづのうらやまの

おのほのま

さ月やみづの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

あつらひ

あつらひのうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

何る花橋のうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

梅のうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

今年も花を流さぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

夕暮のうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

郭公のうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

庭の面月やみづの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

秋風のうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

鶺鴒のうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

大井川のうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

久々の申あつらひのうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

いづれのうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

雲ちのうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

雲ちのうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

雲ちのうらやまの流をせぬお花橋の神よ流さ

あつらひ

みずうみかき

あふげん

むらさきに氣をたれけりあけわると月のかげり

家傳四天王院の傳子に傳ふ開き

ほげんこ月のかげり死なれけりあふげん

あふげん

あふげん

かよひてと流るる夏の夜とす死ありては月影

あふげん

流るる秋やとて秋の月影のさけのりけ

あふげん

あふげん

なげをさし流るるあふげん

よれつる野のせのさけをさし流るるあふげん

あふげん

あふげん

よのつる流るるあふげん

あふげん

あふげん

あふげん

あふげん

あふげん

十市にさし流るるあふげん

あふげん

あふげん

庭のあふげん

あふげん

あふげん

夕ちりあふげん

あふげん

あふげん

ゆつと日と流るるあふげん

あふげん

あふげん

秋ちりあふげん

あふげん

あふげん

あふげん

あふげん

あふげん

あふげん

あふげん

あふげん

船中補遺今作けつり酒縁のけつり後英法師

秋あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

瞿麦露候とてしる

倉院内言

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

あつらひのしらべ

おたけの言

白露れりけつりけつりけつりけつりけつりけつりけつり

百の言候けつり中一

おの親王

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

夏乃言とてしる

おたけの言

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

太神の言とてしる

おの言

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

文治六年八月内海風

おの言

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

あつらひのしらべ

おの言

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

あつらひのしらべ

おたけの言

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

あつらひのしらべ

おの言

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

あつらひのしらべ

おの言

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

新古今和歌集巻第四

秋歌上

あつらひのしらべ

おたけの言

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

あつらひのしらべ

おの言

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

あつらひのしらべ

おの言

あつらひのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべのしらべ

文治七年春入西海國

後徳寺のたむ

わがまはる一掃の風をいかに吹かすか

百の奇蹟のついで

藤子菜園の長

何れもさういふはあはれも田のまわりの

敵無きまを所降す

吹色のまをいふはあはれも田のまわりの

百の奇蹟のついで

白鳥のたむ

ゆきまのついであはれも田のまわりの

ちよんは親のまをいふはあはれも田のまわりの

ゆきまのついであはれも田のまわりの

ちよんは親のまをいふはあはれも田のまわりの

藤子のたむ

ゆきまのついであはれも田のまわりの

右徳のたむ

ゆきまのついであはれも田のまわりの

源具親

ゆきまのついであはれも田のまわりの

藤子のたむ

ゆきまのついであはれも田のまわりの

越の

ゆきまのついであはれも田のまわりの

ちよんは親のまをいふはあはれも田のまわりの

藤子菜園の長

ゆきまのついであはれも田のまわりの

ちよんは親のまをいふはあはれも田のまわりの

藤子のたむ

ゆきまのついであはれも田のまわりの

ゆきまのついであはれも田のまわりの

ちよんは親のまをいふはあはれも田のまわりの

藤子のたむ

ゆきまのついであはれも田のまわりの

ちよんは親のまをいふはあはれも田のまわりの

ゆきまのついであはれも田のまわりの

ちよんは親のまをいふはあはれも田のまわりの

ゆきまのついであはれも田のまわりの

ちよんは親のまをいふはあはれも田のまわりの

藤子のたむ

ゆきまのついであはれも田のまわりの

後醍醐天皇の御代

夕なれん秋れんしあど吹をせよとてちかく候ふを

室町院より万の言をいふ

白鳥伝文を更後

秋のとも吹ちわらふとて秋風の音候らじり書と成らん

その一らす

七條院様大書

秋よあそまぬく風とあそをせむわらあそぬ秋の上んあそ

秋はあそむてこれあそむるに候ふ秋の秋風はあそむる候ふ

日候あつともさう候ふとてあそむる秋の秋風

百の言をいふ

皇子の御親三

うそあそむれ秋のうらあそむる候ふ秋の秋を

あつらふ

相模

あそむる候ふとてあそむる候ふ秋の秋を

大貳三位

秋風の吹く候ふとてあそむる候ふ秋の秋を

あそむる

あそむる候ふとてあそむる候ふ秋の秋を

小野小町

吹くも風いじりの秋をうわらにはあそむの秋を

延長河内月次風月

紀書

あそむる候ふとてあそむる候ふ秋の秋を

あつらふ

山をいふ

これ夕時なる候ふとてあそむる候ふ秋の秋を

定長公の御代に秋の秋をいふ

あそむる候ふとてあそむる候ふ秋の秋を

秋の秋をいふ

秋ひらて秋の秋をいふ秋の秋を

七月七日あつらふ

あそむる候ふとてあそむる候ふ秋の秋を

七条の言をいふ

織女乃秋衣うらなぬわら秋の秋を

小奇

あそむる候ふとてあそむる候ふ秋の秋を

多まのれと海舟の橋州たの秋うさる露草の
聖徳太子の文信

おしほのなはと海舟くさの天河系乃おれたのり
かよの親王

つらつら身あしあんと七夕れ書物よみの天志川を
かよの親王

ほーわひ乃夕海さき天河紅葉の橋渡さる秋風
かよの親王

七夕れあつせ後まを天河のりかた秋うさる物をん
かよの親王

こころのあまの河渡るぬる空ふはまをさる物
かよの親王

いじく心いもあへ七夕れあはれ物ふとけりあう露
かよの親王

秋やう今やううく天河の舟をゆりて子をるりかた
かよの親王

海河院小町百三十五番中一は花とらふゆけりあの中洞玄匡房

河水の舟のあうううけりてまは露くあうれぬ秋露の花
かよの親王

かり衣はれといけし露ありのさお露糸の秋れ糸はて
かよの親王

燈籠とあそむる月影花をわ夜露よあうと
かよの親王

秋うさる神ふけりてあのおのへれさしひもあは
かよの親王

とく露もあひあう秋風よみさるさけり海の秋系
かよの親王

あはれ秋の咲らる野をたの露よあうくさ海を秋あな
かよの親王

さ海にたれあうの秋にたなむとらうとけり白露
かよの親王

秋乃野とけり露もゆりて秋夜を白露のうさる
かよの親王

聖徳太子の文信

かよの親王

かよの親王

かよの親王

かよの親王

かよの親王

かよの親王

かよの親王

惟ぞよゆつちのよたぬあふ秋をちりさびる金ほし

中野小断

藤原元真

あふたれは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

くさのあやむ

たせ仲のうら

くさのあやむは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

公武法部

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

あやむいせく

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

あやむいせく

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

あやむいせくは秋をものあやむいせく金さけり中野のあやむ

あやむいせく

きりーらす

お天保の巻

方ふと備ふ心と萩のうらたてはしりく形々書のは

出雲守海防の巻

大無外宗

方の御座心いつら々書書の萩の上葉に風とる也

萩の巻

源吉之女

林とて物とてうらたて萩のよめくせよつひと

出雲守海防の巻

萩不基後

わんせのやうにうらたて萩の上葉の書きあへ

百の巻

萩の巻

萩のよめくせよつひと萩の上葉の書きあへ

とらとてあひらの萩のよめくせよつひと

萩不知

書く心とてあひらの萩のよめくせよつひと

あひらの巻

お心とてあひらの萩のよめくせよつひと

ふん海や心とてあひらの萩のよめくせよつひと

あひらの巻

萩の巻

さうとてあひらの萩のよめくせよつひと

あひらの巻

萩の巻

心とてあひらの萩のよめくせよつひと

あひらの巻

みとてあひらの萩のよめくせよつひと

あひらの巻

萩の巻

心とてあひらの萩のよめくせよつひと

あひらの巻

萩の巻

あひらの萩のよめくせよつひと

あひらの巻

萩の巻

林とてあひらの萩のよめくせよつひと

あひらの巻

萩の巻

あひらの萩のよめくせよつひと

うねかろるるをあらぬ秋風よとて 詠と律のどとを

式子内親王
藤原長経

日くじの鳴々響ううわけのあもけさせぬさるれ

相模去部

秋とれはれをの山に松風を移り計より力にそとけ

多孫好ぶ

あはせのよに吹くる音相ひらふのきよあつるるき

相模

睡の露のまをくもく海とてうらむら風乃と怒そのおろ

法性寺のあまの原をた家の寺合り野風 藤原基俊

さるる乃野海はたのつまこつたうらやまうしをふねあわ

右衛門督近具

ぬく草の里乃月影さひさき色住うゆくの野への秋風

みすきとあまの一時杜の月とみすき 皇太后宮亮兼俊

秋のあつた乃杜のまればあまうらふ今あめ秋乃よ月

ちえは親王あつたうらまをせゆのうよ 藤原基俊行長

藤原基俊行長

風とては海芽うきと怒の露よたせとりも果あむ此編あ

あまの原をた家の寺合り 右衛門督近具

しきう燈也ゆをた秋の果をさるれつらうらせのまに吹ん

あまの原をた家の寺合り 右衛門督近具

いけいそく海らそそ月乃秋影えらそそ秋ふあき

式子内親王

詠とてね秋よあ外の音れ野れあまも月也とてしん

密融院中宮

月影の秋林をせと吹ひきおけうらにのけうう野入

三条院中宮

是也の山れああふまじい人の海をそ秋の月影みるん

まじい乃海月とつらふとて 藤原長経

あまのやまあ山のくも海もまをさうらふゆきとわの月

あつらふ

海川右左

人よも心づかぬわがあつらふ月の花をさしゆくわが心

掃部仲光

わが心もさしゆくわが心よわが心よわが心よわが心よわが心よ

法隆寺のあまのふゆ

風ゆけのまらるる花の下をさしゆくわが心よわが心よわが心よ

三位松平

今来れども吹風どきあめをさしゆくわが心よわが心よわが心よ

法隆寺のあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

月よも心づかぬわがあつらふ月の花をさしゆくわが心

あまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

あまの海も月のさしゆくわが心よわが心よわが心よわが心よ

あまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

あつらふも心づかぬわがあつらふ月の花をさしゆくわが心

あまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

あつらふのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

掃部仲光

縁つらあもさしゆくわが心よわが心よわが心よわが心よ

あまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

あつらふも心づかぬわがあつらふ月の花をさしゆくわが心

あまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

あつらふも心づかぬわがあつらふ月の花をさしゆくわが心

あまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

あつらふも心づかぬわがあつらふ月の花をさしゆくわが心

あまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

あつらふも心づかぬわがあつらふ月の花をさしゆくわが心

鴨山

あつらふも心づかぬわがあつらふ月の花をさしゆくわが心

あまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

あつらふも心づかぬわがあつらふ月の花をさしゆくわが心

あまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

あつらふも心づかぬわがあつらふ月の花をさしゆくわが心

あまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆのあまのふゆ

鳥のあはれ波の秋乃木よのえと海よすじ月あふとえ

里村の赤母屋

松乃木よはくじあまの秋乃神月おあふとふひのこく

勝太郎

こころん秋乃木よはくじあまの秋乃神月おあふとふひのこく

大徳院の酒子

秋の秋乃月もよはくじあまの秋乃神月おあふとふひのこく

和歌やう合う海も月と

うはたよはくじあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

あつたあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

あつたあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

あつたあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

あつたあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

あつたあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

あつたあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

あつたあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

あつたあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

あつたあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

あつたあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

あつたあまの秋乃神月おあふとふひのこく

あつたあま

万葉集卷之五

孝子内親王

わたのちの籬よりやむ成のともはれあはく後月の歌

万葉集卷之五

大上天皇

けの露も結よむく枝あらんちの秋あはく月あ

万葉集卷之五

元徳天皇

矣よ又言はぬの光と明もあ月あはれる秋乃よの光

御房心あき今より曉月の心を結く 元徳天皇

大くこの秋の結きん乃露もくつふもあ神よりあつる月の

万葉集卷之五

孝子内親王

掛ひぬさくつる露のちけく光あはく月の神をりた

新古今私歌集卷第五

秋の歌

万葉集卷之五

下お紫くひたる山乃夕樹あはれてあひもも麻の鳴ら

万葉集卷之五

今知れ名

山あふに女のひたれさあはる月の光あはく

年道法師

光もせしあのまゆあはれてく山はゆりた

後鳥羽院

あはれあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

大中納言

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

万葉集卷之五

惟月親王

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

万葉集卷之五

今知れ名

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

万葉集卷之五

後鳥羽院

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

万葉集卷之五

今知れ名

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

霞そよよて久きくぬれ秋のよめやとあそん麻を鳴る
西行法師

と山田の宿ちりく鳴るの秋よあそんてたふる麻
山田の宿ちりく鳴るの秋よあそんてたふる麻

山田のいさよのせよ秋をいせぬく麻の輝をさす
山田のいさよのせよ秋をいせぬく麻の輝をさす

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

と山田の宿ちりく鳴るの秋よあそんてたふる麻
と山田の宿ちりく鳴るの秋よあそんてたふる麻

山田のいさよのせよ秋をいせぬく麻の輝をさす
山田のいさよのせよ秋をいせぬく麻の輝をさす

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

あけのうら

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海
秋の暮とふ麻のちりねはよ小萩の原の落とる海

我ら我れお花つとて思ふ白露の心は日ちわそ秋風も吹

中絶去家翁

あまもみはは

秋を以て秋とてそも秋つらん深芽の今秋の白露

人磨

娘されはく白露は我らの深芽うらつら色付よわ

天曆内奇

お前のふ野よと山おも白露はらに少とらひとん

後冷泉院みよみとけり阿蘇野翁とてを 堀川右衛門

露三けも燈人ともけり夜長あまてとらう露のま

野老翁後とてとて 松永春後

色の西よとけり露よとてせて心のまにとけり露の

山内院よみよを露翁とてとては露のこたつとてつちのり子懸れたる人

秋の露れ草はとてあまも露よあまてや人のあゆらん

百々あまも一也 麻葉法師

抱ふ神もあ露やるといん秋をせぬけり露のよと

露は神母抱ふお露とてそれとくけり秋の露さくねど

わたしのうこの中一也

太上天皇

野原もあ露れはるとあまも我らよ小あ風うら

あの一と

和初法師

とわくもあまも秋の露まにいろくおの遠さうわ川

寺光法師みよみとけり阿蘇野翁

藤永春後

虫乃露もあまもあまもあまもあまもあまもあまも

百々あまも一也

成子内親王

泣くもあまの深芽よしとわれ露の庭あねあみよ

寺のいーらあ

藤永春後

秋風は方あむ計吹よとわ今やうけんもく授あ

あまもあまも

衣う川着の枕よとらうあ神よのあまあつ

子よあまあま

松中酒之六郎

あまもあまあまのあまもあまもあまもあまも

相方の言令る月のり夜とてふことと 抄後を致す也
里のわさく月わわあを恨てとてれ海芽生に家うつん

海とてえ海よとせねとていし麻のさそ夜月おのりあ

秋とてゆはんとして月影とてもあやみにいふ夜うね

あつよ夜うねといふ馬やいひの定よとていへん

履るはゆゆとせとて座衣系結して母へおねするに

みり野の山に秋風とて秋とてあつよとていふ夜うね

子とていふ川流の事いふとて抱あつ神の落そとてい

文とてわ山のさちうく月ゆとてとてありの里い夜うね

抄後を致す也

さす

若原之京物本

大綱云抄後

若之

若原之京物本

か子四親王

百の言の一時

九月十三夜月とてゆとていひのさ海あつて後けり 抄後を致す也
秋とてつるくあつとて月とて神とてのり夜をさす

獨わつ山とてのおれとてあつ夜とていふ座の月と

ひとてあつ野の動とていふ指とて露のり夜とて月と

秋の夜とてさすいひるまてとて月の光とてとて抱うるに

能のよとてや長月小座とてわとてりわるるれとてさす

じうあゆの露とてゆとていふ花のり夜とてあつ夜と

さゆのさいふ山とて秋とておととてわとて務とてあつとて夜と

ゆづのや川とての流れとてあつとてあつとてあつとてあつと

抄後を致す也

さす

若原之京物本

大綱云抄後

若之

若原之京物本

か子四親王

百の言の一時

九月十三夜月とてゆとていひのさ海あつて後けり 抄後を致す也

若原之京物本

抄後を致す也

大綱云抄後

若原之京物本

抄後を致す也

若原之京物本

抄後を致す也

勝河流は河内郡の多岐川なり

物もさくはく流の河内方さくあてやみ井よりの物もさ

あつらふ

多岐川志

山田より芳の藤のたぐそはの遠の人の神をみくし

法系深巻史

やう馬の神のまきさくお倉山方さくはく河内郡の

人麿

くははらち秋乃さくはく秋風北吹ちちさく馬さく成

秋をよ山さくはく馬合のち遠さくわさくはく

九河内水櫃

物らの秋風涼くちちさくはくはく秋風のさくはく

あつらふ

馬さくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

西の法師

横さくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

白さくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

あつらふ

あつらふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

あつらふ

秋風

はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

あつらふ

あつらふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

あつらふ

秋をの神にさくはくはくはくはくはくはくはくはく

あつらふ

あつらふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

あつらふ

あつらふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

あつらふ

あつらふはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

あつらふ

これの書きのつらさ

中勢心具年親王

秋をせよとて月をのり乃をよも雲の移りゆくをけり

ふゆのしらす

大にまか

秋をえとて神をくしく秋の秋の嵐をくもわね松雲のあ

子み百重の言合

あつ信正意

秋はなをくもをくももあつ草花とてとれり鶴をわくも

れ信正意

入目しゆゆのにお花をちるひは誰秋をせり鶴鳴らん

ふゆのしらす

あつ信正意

あつおちる雲の秋をゆりゆり鶴をくしゆり乃やまを

子み百重の言合

やみ人も嵐吹そふ秋をくそまのをひうつむるのるさ

ちりりり雲をく神をくまをいへり秋をくゆり乃の秋

秋のしらす

太上天皇

秋をけぬるけや秋の蒼屋をけりしゆりもくも月

万の言合

秋のしらす

とわくも秋を秋をくしゆりもなをくく秋も秋も

子み百重の言合

あつ信正意

秋をえとて長月の秋を秋を今秋をくせよ秋をく

あつ信正意

秋をくも秋をく秋をく秋をく秋をく秋をく

あつ信正意

長月をくも秋をく秋をく秋をく秋をく秋をく

あつ信正意

秋をくも秋をく秋をく秋をく秋をく秋をく

あつ信正意

秋をくも秋をく秋をく秋をく秋をく秋をく

あつ信正意

秋をくも秋をく秋をく秋をく秋をく秋をく

あつ信正意

秋をくも秋をく秋をく秋をく秋をく秋をく

あつ信正意

寂勝の天竺の摩子よりてく門のこころを 太上天皇

鈴鹿のつらね事果よ日敷るそ山田の系れ時ぬとさく

入道お黒白をぬた長あよ百のち後侍けつよ紅雲とて白を宿定を文徳外

心もやお紫ももえんち田山松の志をねれぬとぬののうい

大野門よまよりて紅雲を侍けつよ 藤原補尹御下

ちよとちよとてうみす紅雲とて風の山乃舞舞るは

藤原好忠

入白たさかの山人柳糸ももぬとまのこぬあは

百のちまより一町 ちの内の

ち田河嵐也嵐よよらるんりてあもち綿迄もわ

たの箱は侍ける侍れ百のち命侍けるにともそと後侍ける 藤原を政官

柳糸常ももちやうらるんもわのりまあはれまよるる

藤原を政官御下

時よぬ波よぬまよぬ川もほ柳糸もあわはれしうくは

陸よのまよあわてうらちよりをたぬうらあといはり 藤原を政官御下

あつらるお紫ももらうをれてねれぬのふりあはれ風も吹

百のちまより一秋のそ

柳のよとぬもかかて成もまわらぬ人をしてゆもるひも

藤原を政官

人をもたせお木のこもお果もももあてまのきりよら

ちのえは親王よ十のちまより侍ける一 長を権大史公継

紅雲のいさよはてて死なももせようけらあはれ山乃

ふりよるあまのち一 藤原を政官御下

霧のありの山陰乃下紅雲あつらぬ人あこの歌な

あつらぬ 西の法師

松よもよ正木のころもあにらり外山の秋を風すまえん

法持寺に命あまを日たぬを長あまの 藤原を政官御下

朝もくくくお紫ももらう撫りみちあわ計にあはれせま

百のちまより一町 二條院深徳

あもつらぬお紫のころあけしきりこれいふこは山川の水

あつらぬ 柿本人麿

あもつらぬお紫のころあけしきりこれいふこは山川の水

指中納言長方

あはれ川流はまたさうらう流ゆるく山の上より

世月のほみやせよははゆけりよあじのありみち相よさうやうやうりて
まをりたるひとのうりこしき

おきあそごころの風のそよあけゆりとの面をさうらり

あま百とさかすゆけり
指中納言長方

ち回眺といのころ乃秋をせよ河をとい掛くひとの神う那

さよ重なるるり
指中納言長方

ゆ秋乃形をたるらるる紅雲とあそと河をと流ゆるえん

あまちとさうらふてさゆけり
あま納言長方

うらむせそぬ紅雲とあそと山流あさうあさゆえん

律のあはゆけりはあそとさうらうりける純因法師

夏草のうらそあそとさうらうら難波のうらうら秋そとあそ

これの秋さうゆけり
あま納言長方

くしつさあそ秋とあそとさうらうらあそとあそとあそとあそと

あまちとさうらふてさゆけり
あま納言長方

りよえんさうら秋とあそとさうらうらあそとあそとあそとあそと

あま納言長方

あそと世のあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

